

リサージェンスを起こしにくい合成ピレスロイド剤の使用法

農業研究センター 果樹研究所 病虫化学部

研究のねらい

合成ピレスロイド剤は、ミカンハモグリガやカメムシ類、チャノキイロアザミウマに高い効果を持っている。しかし、反面これらの農薬を使用することでミカンハダニやカイガラムシ類が異常に増える現象(リサージェンス)が起こり、生産現場で問題になっている。

このため、リサージェンスを起こしにくい合成ピレスロイド剤の使用法について検討した。

研究の成果

1. 合成ピレスロイド剤は、ミカンハダニに対して殺虫効果や忌避効果を持っている。効果は、薬剤によって差があり、フェンプロパトリン剤やフルバリネート剤、ピフェントリン剤で高い。
2. これらの効果は、アセフェート水和剤を混用することで増強される。しかし、増強の程度は薬剤によって異なる。
3. ミカンハダニの発生を抑える期間は、合成ピレスロイド剤にアセフェート水和剤を混用した区が、合成ピレスロイド剤のみを散布した区に比べ、20～30日間長い。
4. 合成ピレスロイド剤は通常の濃度で使用し、これにアセフェート水和剤の2,000倍を加える。
5. ミカンハダニの発生とリサージェンスの発生を抑える効果は、ミカンハダニに効果が高く、天敵類に影響の少ないフェンプロパトリン剤とアセフェート水和剤との混用で最も安定している。

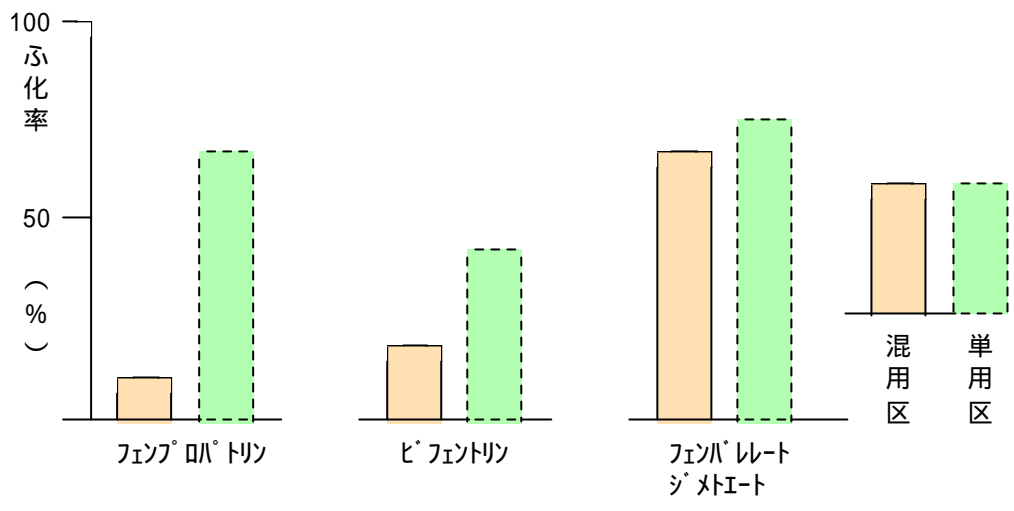


図1 アセフェート水和剤と合成ピレスロイド剤の混用がミカンハダニの卵に与える影響

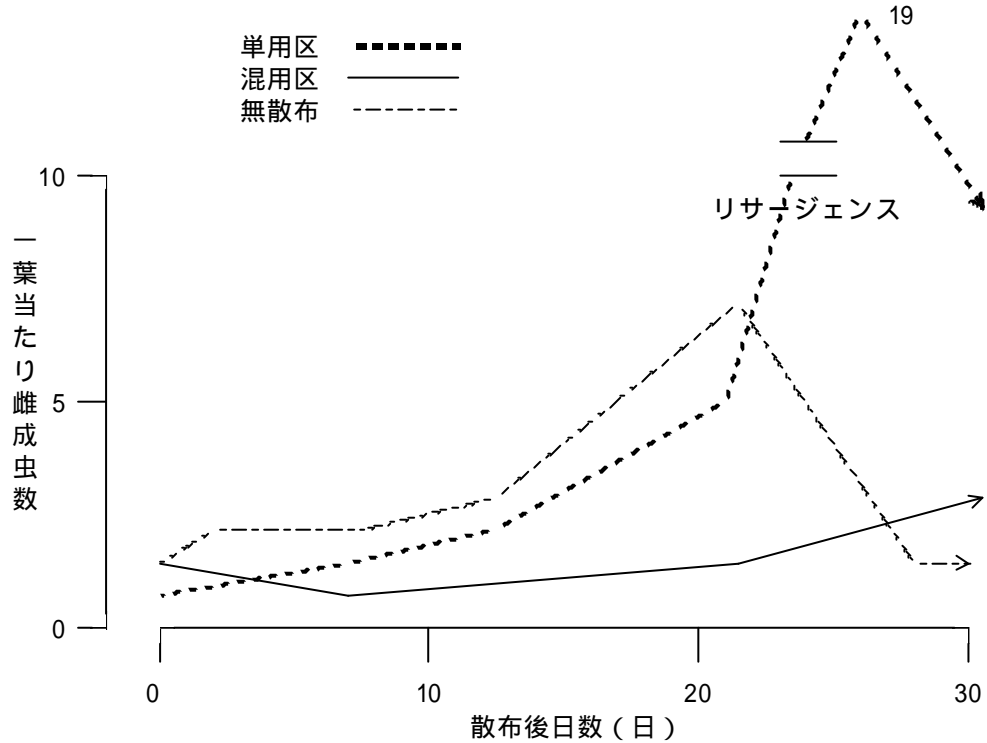


図2 合成ピレスロイド剤(シベルメトリン剤)にアセフェート水和剤を混用して散布した場合のほ場における効果